

「いわき市立いわき総合図書館」オープン

市は平成 11 (1999) 年 7 月、「いわき市中心市街地まちづくり基本計画」を策定します。この基本計画で、いわき駅周辺地区は都市核のひとつとされており、平成 13 (2001) 年 1 月には、いわき駅周辺に総合型図書館を整備する方針が示されます。

いわき駅前再開発ビルへの入居が公式に示されたのは、平成 13 年 11 月の「いわき市中心市街地まちづくり協議会」との意見交換会でのことです。さらに、同年のいわき市議会 12 月定例会において、当時の四家啓助市長が行政報告のなかで、「総合型図書館と産業交流拠点施設を、いわき駅前再開発ビルに導入することが最善と判断した」と述べ、市は、翌平成 14 年度から総合型図書館の基本計画の策定を開始します。

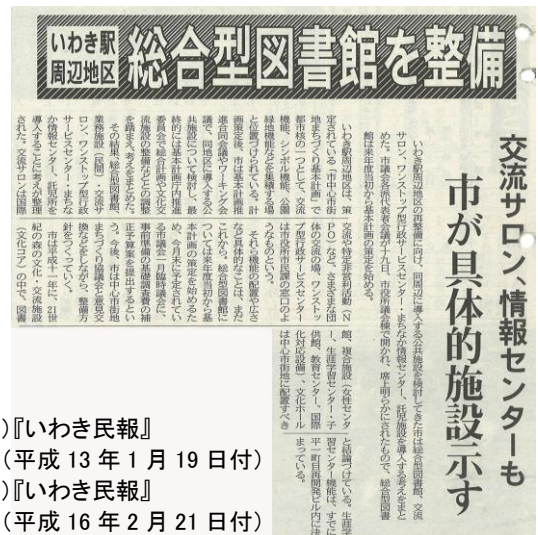
また、平成 13 年 7 月には学識経験者などを構成員とした「いわき市総合型図書館整備検討懇談会」が発足、8 月には図書館司書などを中心としたメンバーを構成員とした「総合型図書館整備検討ワーキンググループ」を庁内に設置し、「いわき駅前地区市街地再開発事業」と連携を図りながら、事業化に向けたフロアレイアウト、蔵書計画、図書館情報システム等に関する検討結果をまとめます。

この時点では、いわき駅前再開発ビルは地下 1 階、地上 14 階の予定でした。このうち、図書館は 4 階から 8 階に配置されることになっており、5 フloor構成となっていました。

しかし、平成 14 (2002) 年 4 月のいわき駅前再開発に関する都市計画の決定により、再開発ビルは施設計画の大幅な見直しを行うこととなります。この結果、平成 15 (2003) 年 11 月には、地上 8 階、地下 2 階の現在の形となります。再開発ビル施設計画の大幅な見直しに伴い、総合型図書館の施設計画も 5 フloor構成から 2 フloor構成へ変更するなど、幾度も計画の変更を経て、平成 17 (2005) 年 4 月、教育

委員会事務局生涯学習課内に「図書館整備検討プロジェクトチーム」を設置します。図書や書架等備品の整備、新図書館情報システム構築・整備、運営体制検討等の供用開始準備に入りました。

平成 19 (2007) 年 5 月には、「いわき総合図書館」と名称が決まり、7 月には一部業務委託業者の公募を行います。9 月からは新図書館情報システム導入のため市内の全図書館を休館とするなど、総合図書館開館へ向けて一気に加速し、10 月 25 日、いわき駅前再開発ビル「ラトブ」の 4・5 階に開館となりました。平成 6 (1994) 年に「総合型図書館構想」を打ち出してから、13 年が経過していました。



上)『いわき民報』
(平成 13 年 1 月 19 日付)
下)『いわき民報』
(平成 16 年 2 月 21 日付)



右)ラトブオープン
(平成 19 年 10 月 25 日 いわき市撮影)